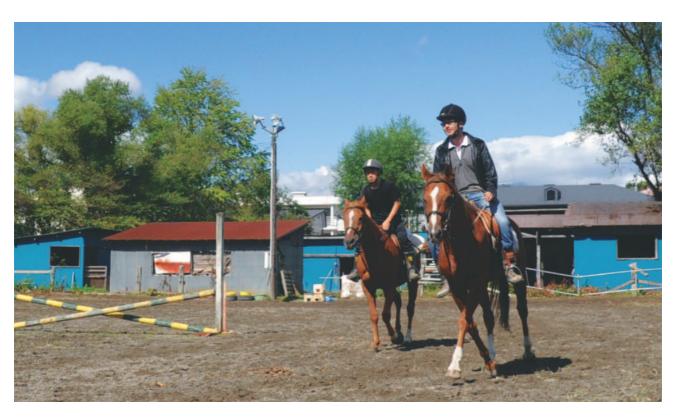
Iwate Medical University News

2011 · 11 vol.422

●発行者—学長 小川 彰 ●題字—理事長 大堀 勉

救援物資、震災募金への御礼

この度の東日本大地震・大津波大災害に際しましては、多くの皆様から救援物資並びに募金 をお寄せいただいています。皆様からの温かいご支援に対し心より御礼申し上げます。



馬術部の練習風景(盛岡市上田の馬場)

〈写真撮影:画像情報センター、10月1日(土) (関連記事はP9)〉

おもな内容

●一 特 集 本学におけるドクターヘリの導入計画について

岩手県高度救命救急センター センター長 遠藤 重厚

- ●― トピックス 矢巾キャンパスに歴史写真展示コーナーと歴史年表掲示板が設置されました
- ●一 寄 稿 秋の園遊会 学長 小川 彰
- ┣━ フリーページ すこやかスポット医学講座 No.31 「脂質異常症」について

内科学講座 (糖尿病·代謝内科分野) 特任講師 種市 春仁



本学におけるドクターへリの 導入計画について

岩手県高度救命救急センター センター長 遠 藤 重 厚

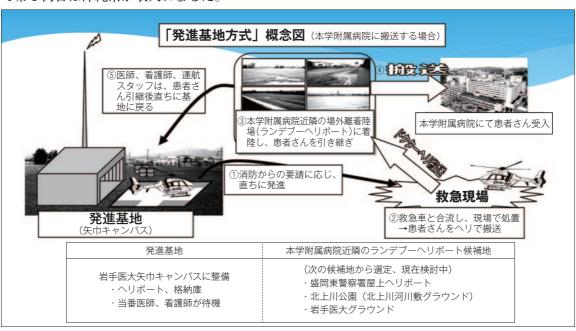
ドクターへリとは、「空飛ぶ救命室」とも呼ばれ、救急医療専用へリコプターに岩手県高度救命救急センターの医師及び看護師が搭乗して救急現場等に出動し、傷病者の治療を行いながら医療機関に速やかに搬送する専用へリコプターのことです。救命率の向上及び後遺症の軽減を図ることを目的として運用され、消防からの要請により矢巾キャンパスへリ発進基地から出動し、岩手県高度救命救急センターまたは他病院へ搬送します。

導入に関わる経緯としては、平成22年3月26日に岩手県知事から大学に対し、ドクターへリ導入についての要請書が提出されたことがあります。県では予てから「いわて県民計画」にドクターへリ導入促進事業を掲げ検討を行ってきましたが、実施に要する関連経費について同年2月の岩手県議会定例会において予算案が可決されました。これを受けて、今後、国庫補助事業を導入し、岩手県高度救命救急センターにおいてドクターへリ事業の実施を依頼し、高度な救急医療機能を一層発揮してほしいという内容でありました。



ドクターヘリの運航体制

ドクターへリの運航にあたっては、基地病院となる本学附属病院(内丸キャンパス)では、基地へリポートの設置が難しいことから、矢巾キャンパス附属病院移転用地(C敷地内)に基地へリポート・格納庫を設置し、全国で2何目となる「発進基地方式」を採用します。発進基地方式とは、ドクターへリの出動場所と基地病院の場所が異なるもので第1何目は沖縄県が取入れました。



【ドクターへリ運航委託会社】

中日本航空株式会社 東京支社

【運航時間】

運航時間は、原則として8時30分から日没30分前までとし365日運航されます。

【運航要員と搭乗者の基準】

- (1) 運航要員 機長、整備士、運航管理者 (CS: Communication Specialist) 各1名
- (2) 医療要員 医師、看護師 各1名
- (3) 搭乗者 患者、付添者 計2名

※ヘリの格納庫内には待機室が設けられ、医師・看護師・機長・整備士・運航管理者の計5名が待機します。

【運航範囲】

岩手県全域、半径100km、片道30分圏内を基本とする。

【搬送先病院の選定】

傷病者の状態に応じて、フライトドクターの判断で搬送先病院 を選定し、病院近くのヘリポートに着陸後、救急車で搬送。

【高度救命救急センターへの搬送方法】

原則として盛岡東警察署屋上へリポートに着陸し、患者さんの 引継ぎを行った後、救急車で搬送を行う (現在協議中)。

ドクターヘリの機体について



【機体写真(ユーロヘリコプター社製 EC-135)】

全長: 12.16m 最大巡航速度: 時速254km 前幅: 10.20m 航続距離: 630km 最大全備重量: 2,830kg 搭乗定員: 6名



【機体内部の様子】

搭載する主な医療機器は、人工呼吸器、吸引器、患者監視モニター、 携帯型超音波診断装置、輸液ポンプ、救急医療器材、医薬品、バッ クボード等です。

ドクターヘリ基地の整備について

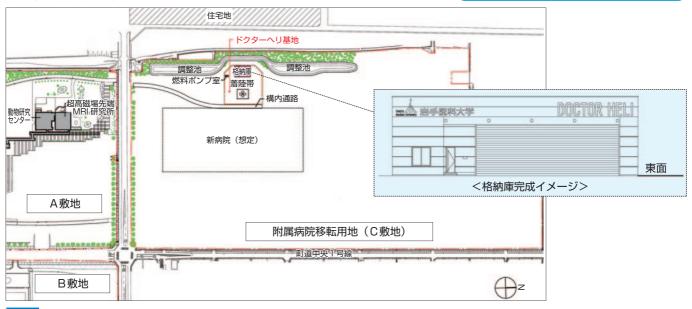
平成23年度内には、矢巾キャンパスの附属病院移転用地内にドクターへ リ基地が完成する予定です。

基地内には、電動式スライディングへリパッドを備えた格納庫、融雪設備へリポート、運航管理事務室、医師待機室、看護師待機室、地下燃料貯蔵庫等が整備されます。10月時点で既に実施設計が完了し、12月初旬から建築工事に着工する予定です。

【建設工事概要】

階 数:地上1階 用 途:格納庫ほか 敷地面積:186,394.35㎡(56,384.29坪)

建築面積: 423.54㎡ (128.12坪) 延床面積: 430.96㎡ (130.37坪)



おわりに

現在、平成24年度からの運航開始に向け、岩手県は県内消防本部や関係機関と運航要領の作成、県内各地のランデブーポイントの調査を進めております。(ランデブーポイントとは、医療要員と患者を接触させるため予め調整した、ドクターへリの離着陸に適した地点をいいます)。

本県の場合、冬場の対応も考慮しなければならず、除雪体制等市町村や消防機関の協力体制も求められます。

また、啓発活動としては、今年6月9日(水)ドクターへリ導入についての住民説明会を開催し、8月7日(日)には一般市民の皆様にドクターへリを体感していただき、導入へのご理解を深めていただくことを目的に機体見学会を開催いたしました。

今後とも関係各位のご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。



医療専門学校歯科衛生学科の戴帽式が行われました

10月1日出午前11時から本学医療専門学校4階講堂で平成23年度の 戴帽式が行われました。戴帽式は、これから同学科の1年生が臨床実 習を行うにあたり、医療人としての心構えや責任感を自覚し決意を新 たにするもので、今年度は43名が式に臨みました。

式では、戴帽生の呼名に続き、教務主任から一人ひとりにキャップがのせられ、壇上の戴帽生全員で誓いのことばが唱和されました。厳かな空気が満ちる中、戴帽生を代表して葛西未久さんが謝辞を述べ、新たな決意を胸に歯科衛生士への第一歩を踏み出すことを誓いました。



第54回岩手恵眼会総会が行われました



10月1日出午後1時から本学講堂(歯学部4階)において、岩手医大眼球銀行登録者の会である第54回岩手恵眼会総会が行われました。

総会には、岩手恵眼会の佐々木達人会長をはじめ、岩手医大眼球銀行総裁の小川学長ら約150名が出席し、献眼物故者に黙祷を捧げたほか、髙橋事務局長から活動状況が報告されました。

また、本学眼科学講座後藤恭孝先生による「東日本大震災における眼科診療について」と題した講演が行われ、出席者が耳を傾けていました。

緊急シンポジウム「東日本大震災と災害医療」が行われました

10月8日(日)午後1時から、岩手教育会館において緊急シンポジウム「東日本大震災と災害医療」が行われ、一般市民の皆様が多数出席しました。

シンポジウムは小川学長による「東日本大震災への対応と問題点」 と題した基調報告で幕を開け、小川学長、大阪府済生会の齋藤副会長、 岩手県立大槌病院の岩田病院長、日本テレビ放送の高田解説委員がパ ネリストとなり、災害医療のあり方について意見が交換されました。



学校法人順天堂様からの被災地支援車両贈呈式が行われました



レプリカキーの贈呈後、固い握手を交わす本学の小川学長(左)と学校法人順天堂小川理事長(右)

10月20日休午前11時30分から、矢巾キャンパスのロータリーで、学校法人順天堂様からの被災地支援車両贈呈式が行われ、学校法人順天堂小川秀興(おがわひでおき)理事長、順天堂大学 新井一(あらいはじめ)医学部長、本学の小川学長、祖父江副学長、小林附属病院長が出席しました。

この贈呈式は、東日本大震災発生直後から本学が行っている災害医療 支援活動に役立つようにと、学校法人順天堂様から本学へ車両2台が寄 贈されたことに伴い行われたものです。

寄贈された車両は、トヨタ アルファード (シルバー、ブラック)

で、今後本学が行う被災地支援活動用の車両として活用させていただきます。

ここに、学校法人順天堂様には、厚く御礼申し上げます。

矢巾キャンパスに歴史写真展示コーナーと歴史年表掲示板が設置されました

10月から、矢巾キャンパスに歴史写真展示コーナーと歴史年表掲示板が設置されました。

大堀記念講堂前に設置された歴史写真展示コーナーには、私立岩手病院時代(明治30年(1897年)開院)から始まる40枚の貴重な写真が展示されています。

歴史年表掲示板は、キャンパスモール1階(キャリア支援センター入口近く)に設置され、創立者三田俊次郎先生の生誕(文久3年(1863年))以降の、本法人の歩みが紹介されています。

どなたでも自由にご覧いただけますので、矢巾キャンパスへお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



歴史写真展示コーナー



歴史年表掲示板

表彰の栄誉

泌尿器科学講座 藤岡 知昭 教授に 臓器移植対策推進功労者厚生労働大臣感謝状が贈呈されました



本学附属病院副院長の泌尿器科学講座藤岡知昭教授は、臓器移植対策推進活動への顕著な功績が称えられ、厚生労働大臣から感謝状が贈呈されました。

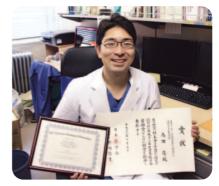
藤岡教授は、110例以上におよぶ生体腎移殖手術や18例の献腎移殖手術、ドナー腎摘除術(7腎)を施行し、臓器移殖医療に貢献してきました。また、手術成績の向上につながる研究に従事する一方で、1996年の臓器移植法施行以後は、医局員を積極的に勉強会や説明会に派遣するなど臓器移植医療の普及・推進活動に大きく寄与されました。

本学附属病院は本県唯一の腎移植施設となっており、藤岡教授は本県の臓器移植医療を永年にわたり支えてきました。藤岡教授の今後ますますの活躍が期待されます。

泌尿器科学講座 高田 亮 講師が2011年米国泌尿器科学会総会 ベストポスター賞および平成23年度日本癌学会 奨励賞を受賞しました

医学部泌尿器科学講座の高田亮講師が、本年5月にワシントンにて開催された米国泌尿器科学会総会において、「日本人の前立腺癌の発症に関する遺伝子多型研究」という内容でベストポスター賞を受賞しました。また同研究に対し、日本癌学会より本年度の奨励賞が授与されました。

この研究は、泌尿器科学講座と理化学研究所、京都大学の共同研究によって行われ、現在本学も参加しているオーダーメイド医療実現化プロジェクトで収集されたおよそ1万3000人の血清サンプルを用いて網羅的に遺伝子多型を解析し、日本人の前立腺癌の発症に関連する遺伝子多型を複数同定したものです。本成果は昨年8月にNature genetics上に掲



載されるなど、世界的に高い評価を受けております。今回の成果は、個々の前立腺癌発症リスクの予測を可能とし、前立腺癌の分子生物学的発症機序の解明につながるものと考えられます。



写真1

去る10月13日、天皇陛 下からのご招待を受けて、 赤坂御苑で開催された秋の 園遊会に出席して参りまし た (写真1)。3月11日の 大災害を受けた被災地の国 民として、また、本学が果 たした発災以来の岩手県で の災害時医療における活躍 が評価されてのものと思い ます。この点、個人で選ば れたものではなく、岩手県 民、また、岩手医科大学の 教職員を代表してのご招待

であると思っています。従って、皆様へのご報告が必要で はないかと思い筆をとりました。

今回の園遊会は春の園遊会の開催が「震災」のため中止 された後の初めての開催でした。そのため本来は春の園遊 会にご招待される著名な政治家や在外高官も多数ご出席で した。有名人では「なでしこジャパン」の佐々木 則夫監 督と澤 穂希選手、元大関魁皇の浅香山親方などが出席し ていました。約2000名が出席されたと伺っています。御 苑に点々と置かれたテントにはお酒や意外と質素な軽食が 用意されており、御料牧場の羊の焼肉と焼鳥が柔らかく美 味しかった事が思い出されます。皇族がお廻りになった後 ですが、普段は入れない御苑内の散策と飲食を多少楽しま せて頂きました。

皇族は天皇陛下を先頭に、一部の方々にお声をかけなが ら赤坂御苑の中心部の池を一周されます。2000名を超え る参加者を約1時間半位の時間で回るのですから言葉を掛 けられる方は僅かです。マスコミ関係者は移動は出来ず、 報道写真はすべてこのアングルの写真です (写真2)。私 は家内とともにこの写真の右手前におりました (写真3)。

しばらくして、天皇陛下がおいでになりました。私の名



写真2 (中央左から 佐々木監督、澤選手、浅香山親方)

札をご覧になり、お立ち寄り下さいまして「この度は大変 でしたね。県民の皆様の健康を心配しております。」とお 話しされました。私からは「早い時期から本県の避難所を 何度も慰問されました事に感謝申し上げます。被災県民は どれだけ力づけられたでしょう。」と御礼を申し上げまし た。その他、色々とお話をされ長時間留まっておられた後、 お進みになられてから一歩戻られ、さらに、「岩手医科大 学の職員、学生の安否は大丈夫でしたか。」との気遣った お言葉を頂いた事には誠に驚かされました。また、しばら くして皇后陛下がお見えになり、次いで、皇太子殿下、秋 篠宮殿下、秋篠宮紀子殿下、常陸宮華子殿下がおいでにな りました。皆様が私の前でお立ち寄りになり、それぞれの ご皇族から個々にお言葉をかけて頂きました。結果、ご出 席の全ての皇族とお話させていただきました。「災害時の 岩手県の医療において岩手医科大学は大変貢献されたと聞 いております。これからも県民のためがんばって下さい。」 とのお言葉まで頂きました。胸のネームプレートの岩手医 科大学の「岩手」のみならず「岩手医科大学」にも目を留 めて頂いたものと思います。皇族の皆様の中に「岩手」と 「岩手医科大学」が深く刻まれていたことは事実です。周 りにおられた多くの方々は何でこの人の所で皇族の方々皆 がお立ち寄られお話をされるのだろうといぶかっている様 に思えました。

後に、過去に園遊会にご出席の方や宮内庁と関係のある 方からは「ほとんどの方がお話は出来ないものです。お声 をかけて頂く一部の方でも皇族のお一人かお二人です。」 と伺いました。当日いらっしゃった全ての皇族の方々にお 声をかけて頂きお話できたのは「岩手の被災地・被災者」 を思っての事と思います。その意味でも今回の待遇は破格 と言って良いでしょう。また、「岩手医科大学の大活躍」 があっての事と思います。改めて、個々の方々が直接は関 わらなかったとしても、全学が一致一丸となって発災直後 に「やるべき事をした。」結果であり、全教職員各位に敬 意を表したいと思います。



写真3 (中央左から 家内、筆者)

投書箱から



院内に設置している投書箱に患者さんからお手紙が寄せられましたので ご紹介します。(なお、紙面の都合により文面を一部省略しました。)

耳鼻咽喉科病棟 に入院された 患者さんから 看護師さん達のおかげで、病気も早く治り本当に感謝しています。

担当医の先生も、毎日毎日顔を出し、こまめに容態を聞いてくださったので安心して毎日を過ごしてました。

最初、ヘリコプターに乗ってきた時は不安でしたけど、みなさん温かく接してくださって、 本当にありがとうございました。

約2か月に及ぶ入院生活の間、昼夜を分かたず誠意を込めて見守っていただきました主治 医の先生方、本当にありがとうございました。

そして、何事にも優しい笑顔で対応していただきました看護師並びにスタッフの皆さんに 対しまして、心より深く感謝申し上げます。

毎日笑顔に接すれば自然に気持ちが明るくなり、更に新しい命をいただいたような気がしてなりません。

この得難い体験のご恩に報いるため、努めて笑顔を絶やさず過ごして参りたいものと思います。

外科病棟に 入院された 患者さんから

中津川のサケ

本学医療専門学校前を流れる中津川は、北上川の支流で毎年サケが 産卵のため遡上する川として知られています。中津川の清流は盛岡市 街で北上川と合流し、宮城県の石巻湾・追波湾(おっぱわん)が河口 になっています。中津川に架かる中の橋のたもとには、サケの遡上を 象徴するモニュメントが飾られています。河原にはウォーキングコー スも整備され、春には色とりどりの野花が咲き、夏にはアユがおどり、 冬には白鳥が羽を休める光景が見られるなど、四季折々の風情を楽し むことができる市民の憩いの場になっています。

その中津川に秋の訪れとともに、今年もたくさんのサケが帰ってきました。

3月11日の大津波に襲われた石巻市の北上川河口から、約200キロの里帰りになりました。長い道のりを何日もかけて泳ぎきって、生まれ故郷に戻り、最後の力を振り絞って産卵するサケの姿に感動します。

(文と写真:企画部長 遠藤 祐一)





10月12日(水)医療専門学校付近にて撮影

一 大学報原稿募集 一

岩手医科大学報は、教職員皆様のコミュニケーションの場として発行を重ねていますが、さらなる教職員同士の"活発な意見交換の場"として原稿を募集しています。

岩手医科大学に対する意見や提言、日々の業務で感じること、随想、作品(写真、俳句、絵画など)、サークル紹介、学報への感想など、様々な内容をお寄せください。(原稿字数 500字~1,000字程度)

また、特集してほしいテーマや、各コーナー (「表彰の栄誉」「トピックス」「教職員レター」など) への掲載依頼などもお待ちしています。事務局まで ご連絡ください。

連絡先 大学報事務局(企画部企画課) 内線7023 kikaku@j.iwate-med.ac.jp

数職員レター

同人扇子の作成

解剖学講座 細胞生物学分野 助教

枡 一毅

「東方プロジェクト」というゲームがある。商業流通には乗らない自主製作のいわゆる「同人ゲーム」というものであるがこれが中々出来が良く、延々とはまり続けて今日に至る。

ジャンルがシューティングゲームなので、ある程度 やりこむと飽きてくるのだが、飽きた頃に新作が出る ので止まらないのである。気が付けば買い始めてから 9年も経っていた。もはや信者と言っても過言ではな いであろう。

そんな訳で好きが高じ、そのゲームをネタにした扇子を作った。同人グッズと言う奴である。しかしどうせ作るなら普段使いに耐えうるようなデザインにしたい。見る人が見れば同人ネタだと見抜けるが、知らない人には普通の綺麗な扇子に見えるのが良いと思った。と言うのも、一般的な同人グッズと言うのはオタ趣味丸出しの萌えデザイン(という言い方も嫌いなのだが)である事が殆どであり、よほど思い切りが無ければ街中で使える代物ではないからである。

という事で、知っている人だけに通じる素敵な扇

子、と言うコンセプトでデザイン。折角なので京都の扇子屋さんにお願いして薄絹扇子に仕立てて貰った。しかし一本だけではただのオーダーメイドであり同人とは言えない。同人と言うからにはやはり同好の士にも手に取って頂きたい。値段は高いが綺麗だから多分売れるぜ、と思ったので100本作って同人ショップに卸したら二週間で完売した。一年かけて捌ければ御の字かと思っていたので嬉しい想定外。高級同人扇子、とかいうニッチすぎる品を手に取り、買ってくれた方々に感謝する事しきりであった。

味を占めたので、同様のコンセプトで今度は手のひらサイズの香炉兼灰皿を作ろうと考えている。出来れば鋳造にしたいのだが、折角盛岡に住んでいるのだから南部鉄器の工房に話をつけたら素敵な物が出来ないかしら、と妄想を膨らませている次第である。



完成した扇子

理事会報告

■9月定例(9月26日開催)

1. 教育職員の人事について 医学部内科学講座 (糖尿病・代謝内科分野) 准教授 高橋 和真 (前嘱託准教授)

(発令年月日 平成23年10月1日付)

- 2. 一般職員の人事について 病院事務部次長 (兼 医療福祉相談室長事務取扱) 齊藤 俊哉 (前病院事務部医療福祉相談室長) (発令年月日 平成23年10月1日付)
- 3. 災害医学講座の設置について

<設置目的>

東日本大震災の経験を踏まえて、災害対応の問題点を調査・検証し、今後の大規模災害に対応する緊急時の総合的医療システムの構築に資する研究・教育を行うため

<運用体制>

寄附講座として位置づけ、3年程度を目安として運用の見 直しを行う。今後は国の補助事業と連動して教員配置や講座 施設等の整備を取り進める。 4. 就業規則の一部改正について

障がい者の法定雇用率の安定確保を目的とする障がい者契 約職員制度の新設に伴い、就業規則を一部改正

(施行年月日 平成23年10月1日)

5. 学長選任規程及び同実施細則の一部改正について

学長候補者選考の公明性の確保及び組織規程の一部改正への対応並びに文言整理のため、学長選任規程及び同実施細則を一部改正

(施行年月日 平成23年10月1日)

- 6. 退職給与引当金計上基準の変更について
- 7. 平成24年度予算編成方針について

附属病院移転整備などの早期実現を見据えた総合移転整備 事業を展望しつつ、経常的経費の厳しい節減を行い、移転資 金の確保に向けた財政基盤を確立するとともに、外部資金の 積極的な獲得を図り、教育・研究・医療活動が円滑に遂行出 来るよう配慮し、可能な限り圧縮した予算を目指す基本方針 とすることとした。

第91回大学報編集委員会

日 時:平成23年11月17日(木) 午後4時~午後5時

出席委員:影山 雄太、松政 正俊、小山 薫、佐藤 仁、下山 佑、佐々木 さき子、米澤 裕司、武藤 千恵子、野里 三津子、

山尾 寿子、細川 幾恵

岩手医科大学震災募金のご案内

東日本大地震・大津波大災害に際し、被災により学業継続が難 しい学生に対する経済的支援や今後年単位で続く事が予想される 被災地への地域医療支援のための資金、大学の教育施設の被災復 興を目的として、岩手医科大学震災募金活動を行っております。 皆様からのご協力をいただきますようお願い申し上げます。

なお、手続き方法等については**企画部企画課 支援受付担当**までお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

岩手医科大学企画部企画課 支援受付担当 〒020-8505 岩手県盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111 (内線 7022・7023)

FAX 019-624-1231

E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

募金箱

表紙写真について

岩手医科大学八十年史によると、表紙写真で紹介した馬術部は、昭和3年の岩手医学専門学校の創立と共に始まり、創部当初は厨川に駐屯する騎兵将校による指導の下、軍馬で部活動を行っていたとされています。現在は、盛岡市上田2丁目に活動拠点を置き、厩舎やナイター照明施設が備えられた馬場で部員が毎日練習に励んでいます。練習以外にも、部員自ら馬の世話を行い、愛馬とのコミュニケーションを深めています。

撮影にご協力いただいた部員の皆様、誠にありがとうございました。



昭和11年頃の馬術部の様子(現 二号館前)

するやか

スポット医学講座

No. 31

内科学講座 (糖尿病・代謝内科分野) 特任講師 種市 春仁



「脂質異常症」について

【日本人の高脂肪食化と脂質異常】

「平成18年国民健康・栄養調査結果の概要」によると、「脂質異常症が疑われる人」は4,220万人と推測されており、これは「高血圧が疑われる人」の3,970万人より多く、日本人の食生活などのライフスタイルの変化が原因と考えられています。日本人の総摂取エネルギーに対する脂質エネルギー比は1955年には10%以下でしたが、それ以降は平均で25~26%台を推移し、特に20~40歳代では脂質エネルギー比が適正比率上限の25%を超えています。こうした食生活の変化が、脂質異常症の増加に影響し、今後の日本人の虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症)の増加につながる可能性が指摘されています。

【悪玉コレステロール:LDL コレステロール】

健康診断で測定される脂質項目は主に「悪玉コレステロール」と言われる LDL コレステロール (LDL-C) や「善玉コレステロール」と言われる HDL コレステロール (HDL-C) そして中性脂肪 (TG) の3つがあげられます。その中で最も体に悪影響なのが「悪玉コレステロール」と言われる LDL-Cです。血液内に LDL-C が多いと血管の壁に入り込み動脈硬化の原因になるということがわかっており、心筋梗塞や狭心症を引き起こすと言われています。ですから LDL-C をコントロールすることが大変重要になってきます。いくつにコントロールするかは、

その人が動脈硬化の危険因子を他にどれくらいもっているかで決まります (表1)。

【HDL コレステロールと中性脂肪】

HDL-CやTGも動脈硬化には大変重要です。特に内臓脂肪過多が原因のメタボリックシンドロームの多くは低HDL-C血症や高TG血症を合併しやすく、その数値が軽度の異常でも高LDL-C血症と同じくらい動脈硬化を引き起こすと言われています。

【低エネルギー・低脂肪食】

現代の日本人の食生活は明らかに高エネルギー、 高脂肪食であります。今一度日本の「和食」を思い 出していただき低エネルギー・低脂肪食を実践しな ければいけません。

表1 リスク別脂質管理目標値

カテゴリー		脂質管理目標值 (mg/dl)		
	LDL-C 以外の 主要危険因子※	LDL-C	HDL-C	TG
I (低リスク)	0個	<160	≥40	<150
Ⅱ (中リスク)	1~2個	<140		
Ⅲ (高リスク)	3個以上	<120		
心筋梗塞および狭心症の既往あり		<100		

※LDL-C値以外の主要危険因子

- ●加齢(男性≧45歳、女性≧55歳)、●高血圧、●糖尿病、
- ●喫煙、●冠動脈疾患の家族歴、●低HDL-C血症(<40mg/dL) 糖尿病、脳梗塞、閉塞性動脈硬化症の合併はカテゴリーⅢとする。 (日本動脈硬化学会編:動脈硬化性疾患予防ガイドライン2007年版改変)

今月はスポーツの秋にちなみ、全国の大学でも珍しい馬術部の練習風景を撮影してきました。まさに「天高く馬肥ゆる秋」この言喭にはふたつの言い伝えがあり、豊穣の秋、食欲の秋のたとえと、もうひとつには、紀元前、中国の北西地方では秋には北方騎馬民族の侵略に警戒せよ。秋には必ず異変が起きるから注意せよ。との戒めの意味もあります。このふたつをふまえ、観賞してもらえれば幸いです。大震災から八ヶ月、まだまだ異変に注意し師走を迎えたいものです。(編集委員 中島 久雄)

岩手医科大学報 第422号

発行年月日 平成23年11月30日編 集 岩手医科大学報編集委員会事務局 企画部 企画課

企 問 部 企 世 課 盛 岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111 (内線7022)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印 刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2 - 8 - 7 TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp